第５回「ぼくたちの地球を守ろう」小学生・中学生作文コンクール
第２回「アジアこども会議」

報　告　書

期　間　１９９５年4月1日（土）～１９９５年8月２５日（金）

主　催　地球こどもクラブ
後　援　環境庁　文部省　外務省　毎日新聞社　毎日小学生新聞　　毎日中学生新聞
　　NHK　TBS
協　力　中国大使館・北京市教育局・韓国大使館・インドネシア大使館・
　　（財）日韓文化交流基金
協　賛　地球環境基金・地球環境財団

はじめに

１９９１年、環境庁創立２０周年記念事業としてスタートした「ぼくたちの地球を守ろう」小学生・中学生作文コンクールは今回で５回目を迎えました。

このコンクールは、これからの世界を担う現在の子供たちを対象に開催されるものです。「今をどのように受けとめ、感じているのか」自分の考えを発表する場を与えると共に、作文を書くことによって新ためて地球環境の問題について考えて欲しいと企画しています。

１９９２年は６月に開催された環境サミットに合わせ、ブラジルの子供たちにも作文を募集し、第４回からは中国・韓国の子供たち、そして今回から新たにインドネシアを加え４ヵ国の子供たちに募集を呼びかけました。

応募総数は前回を上回る３，９２０作品でした。年々、全国的な拡がりを見せており今回は担任の先生の呼びかけや学校全体で応募された作品が多く見られました。

また、地域のＮＧＯより会員に呼びかけるために応募要項の請求があったなど嬉しい拡がりを見せています。

８月２３日（水）千代田区如水会館にて、高円宮殿下・妃殿下をお迎えし、「第５回授賞式」と「第２回アジアこども会議」を開催いたしました。

当日、ＮＨＫ午後９時のニュースで放送されました。さらに毎日学生新聞などでは、授賞作品全文掲載など大きく紹介されました。

なお、会議終了後、父兄や関係者の方々から当イベントの発展を期待する励ましのお便りをたくさん頂いております。

また当日、中国・韓国・インドネシアの入賞者が訪日したことを記念して「第２回アジアこども会議」を開催しました。

この会議は第５回作文コンクール受賞者を中心に、作文コンクール審査員も参加し意見交換を行ないました。

家族の話、学校での出来事など様々な意見が発表されました。
これを私たちの「こどもアジェンダ２１」として宣言書を作成し、大島理森環境庁長官に４ヵ国の代表者４名が手渡して会議は閉会しました。

以下、詳細をご報告申し上げます。

「ぼくたちの地球を守ろう」作文コンクール
運　営　組　織　図

主催／地球こどもクラブ

後援／環境庁・文部省・外務省・毎日新聞社・毎日小学生新聞・
毎日中学生新聞・NHK・TBS

協力／ 中国大使館・北京市教育局・韓国大使館・インドネシア大使館・
（財）日韓文化交流基金

協賛／東京電力(株)・三井物産(株)・三菱重工業(株)・富士ゼロックス(株)
安田火災海上保険(株)・(株)日立製作所・(株)東芝・日本電気(株)・
東京ガス(株)・東北電力(株)・中部電力(株)・日本電信電話(株)・
(株)ＮＴＴメディアスコープ・清水建設(株)・大成建設(株)・
鹿島建設(株)・(株)井田企画

特別協賛／地球環境基金・地球環境財団

第　1　部

第5回作文コンクール授賞式

第５回作文コンクール授賞式

１　応募要項

第５回「ぼくたちの地球を守ろう」小学生・中学生作文コンクール

テーマ	「ぼくたちの地球を守ろう」 環境保全問題に関する考えをまとめる
賞	高円宮賞　（小・中各１名） 環境庁長官賞　（小・中各１名） 優秀賞　（小・中各２名） 地球こどもクラブ賞（小・中各２名） 特別賞　（若干名）
審査基準	地球環境に対する純粋で素直な表現力と視点を競う
審査委員長	江森　陽弘　（ジャーナリスト／元朝日新聞編集委員）
審査委員	赤池　　幹　（毎日小学生・中学生新聞編集長） 山谷えり子　（サンケイリビング新聞編集長／生活ジャーナリスト） 島田　一男　（社会心理学者） 森　ミドリ　（音楽家） アグネス・チャン（歌手） 浅井　清恵　（千葉県御宿中学校教諭） 杉山　多恵　（環境庁環境企画調整局環境保全活動推進室・環境学習専門官）
応募資格	小学４年生から中学３年生まで
応募方法	４００字詰原稿用紙　３枚以内 中国語・韓国語・インドネシア語　上に同じ 作品書き出しに作品名／氏名／学校名記入 作文用紙裏に氏名・連絡先・年令・国籍を記入
応募先	〒107東京都港区赤坂７－１０－９赤坂伊藤ビル６Ｆ 地球こどもクラブ「ぼくたちの地球を守ろう作文コンクール」係
応募締切	日本語作品：１９９５年５月２０日（当日消印有効） 外国語作品：１９９５年４月２８日必着
注　　意	応募作品は返却できませんのでご了承下さい。また、作品の著作権・所有権は 地球こどもクラブに帰属します。
発　　表	入賞者には事務局より直接ご連絡致します。 新聞・雑誌「SOLA」紙上他
授賞式	１９９５年８月２３日（水）
主　　催	地球こどもクラブ
後　　援	環境庁・文部省・外務省・毎日新聞社・毎日小学生新聞・毎日中学生新聞・NHK TBS
協　　力	中国大使館・北京市教育局・韓国大使館・インドネシア大使館・(財)日韓文化交流基金
協　　賛	地球環境基金・地球環境財団
問合せ先	地球こどもクラブ　作文コンクール事務局 電話番号　東京０３（３５８６）２７４１
受付時間	AM１０：００～PM１７：００（土・日、祝日除く）

2　授賞式

日　　時　　１９９５年8月２３日（水）
　　午後２時から２時５０分
場　　所　　如水会館（千代田区丸の内３－２－１）
　　富士の間にて
出 席 者　　来　賓　高円宮殿下・妃殿下
　　大島　理森（国務大臣・環境庁長官）

　　近藤　次郎（地球こどもクラブ会長）
　　愛知　和男（地球こどもクラブ副会長／元環境庁長官）
　　那須　　翔（地球こどもクラブ副会長／東京電力株式会社会長）
　　小林陽太郎（地球こどもクラブ副会長／富士ゼロックス株式会社会長）
　　審査委員長　　江森　陽弘（ジャーナリスト／元朝日新聞編集委員）
　　審査員　　赤池　　幹（毎日小学生・中学生新聞編集長）
　　杉山　多恵（環境庁・環境学習専門官）
　　山谷えり子（サンケイリビング新聞編集長／生活ジャーナリスト）
　　長沢　光男（環境ジャーナリスト／元朝日新聞編集委員）
　　森　ミドリ（音楽家）
　　浅井　清恵（千葉県御宿中学校教諭）
　　入賞者　　１６名（海外在住のため欠席）
　　父　兄　　２５人
　　マスコミ　NHK・毎日新聞社・三井物産広報室
　　スタッフ　１１人

進　行　　午後２時、高円宮殿下・妃殿下をお迎えし「第５回授賞式」が開会致しました。地球こどもクラブ会長　近藤次郎氏の開会のあいさつの後、高円宮殿下よりお言葉を頂きました。続いて大島理森環境庁長官より祝辞が延べられ、授与に移りました。本日の出席者は１６名、うち２名（海外日本人学校）は親族の代理出席でした。今回、入賞者のうち３名が海外日本人学校の生徒で、帰国した１名が出席しました。特別賞の中国・韓国・インドネシアの子供たちは、授賞式出席のため訪日しました。閉会後、受賞者は高円宮殿下・妃殿下と共に記念撮影をしました。

3　入賞者一覧

高円宮賞	長谷川顕子	（福井大学教育学部付属小学校５年）
	桃島　頌一	（静岡県浜松市立西部中学校２年）
環境庁長官賞	井上　大作	（愛媛県伊予三島市立寒川小学校５年）
	上原　照代	（鹿児島県私立池田中学校３年）

優秀賞	久保　沙織	（青森県三戸町立三戸小学校５年）
	石井　力丸	（埼玉県桶川市立桶川東小学校６年）
	小笹　浩一	（カナダ・トロント補習授業校３年）
	明石　真維	（大阪府箕面市立第一中学校１年）
地球こどもクラブ賞	長谷川智則	（カナダ・トロント補習授業校４年）
	西上　友理	（神奈川県横浜市立白根小学校４年）
	網野　弥生	（スペイン・マドリット日本人学校１年）
	吉野　太一	（千葉県御宿町立御宿中学校１年）
特別賞	王　博雅	（中国／北京市史家胡同小学校４年）
	藩　博	（中国／北京第二中学校３年）
	ユー・インソン	（韓国／ソウル大峙国民学校６年）
	チョン・アルム	（韓国／ソウル開院中学校２年）
	ｱﾃﾞｨﾝﾀﾞ・ｱﾕ・ｲﾝﾃﾞｨﾗｻﾘ	（Al-Azhar Kemang小学校４年）
	R・ｽﾊﾙｻﾝﾄ・ﾗﾊｰｼﾞｮ	（Tarakanta 2　小学校４年）

4　作文コンクール受賞記念品

高円宮賞	図書券　７０，０００円分
環境庁長官賞	図書券　５０，０００円分
優秀賞	図書券　３０，０００円分
地球こどもクラブ賞	図書券　１０，０００円分
特別賞	カメラ　（オートフォーカス／パノラマきり替え）

5　調　査　結　果

応募総数３，９２０作品の内訳は、次頁のとおりです。
募集告知に対する各マスコミ（朝日・毎日・読売をはじめ他地方新聞等）の拡がりや、企業広報誌等のご協力により、応募数の増加や地域の拡がりが確実なものとなって参りました。

作品の内容としては、前回第４回応募作品からは家庭・学校・地域などでの活動報告が増えてきました。今回もますますその傾向が強く、こどもらしい率直な表現の作品が目立ちました。

しかし、地域的に基本的な知識・情報に欠けている作品がみられ残念に思う作品もありました。

環境問題に対し「基本的な知識・正確な情報」を得るのは簡単なようであり実はとても難しくも感じます。まして大多数が受験に追われる小学生・中学生にとって困難ではないでしょうか。柔軟な考え方のできる年代に、多くの正確な情報を得ること、そこから自分自身の捉え方・考え方を学んで行かれることを期待し、当イベントの課題と致したいと考えます。

小学生部門

実際に活動している内容が多く見られました。クラス単位や地域の活動に参加する母親と同行するなど月２回の土曜休暇を上手に利用しているようです。活動内容としては、牛乳パックの回収やリサイクル活動などです。また数人の父母は家を開放し、リサイクル教室をこどものために始めている家庭などもありました。子供たちは次第に自分たちの活動範囲を広め環境新聞を作成し、教室に貼りだしているという報告もありました。

中学生のように、個人や友人同志だけで活動することはあまりないようですが近所のお年寄りを尋ねて話を聞いたり、家族が揃う夕食で親や兄弟から情報を得て自分なりに考えている様子が伺えます。

また動物保護についても訴えと同時に、「山に行ったらごみを持ち帰る」「川に食べ残しを捨てない」などまず自分の身近な所から保全に参加しようという意見がありました。

中学生部門

年令的に個人レベルで行動していることが目立ちました。例えば地域の活動に1人で参加して友人に広めていたり、小学生の時に始めた課題を中学生になって本格的に研究したりしています。

また、考え方に柔軟性が感じられました。前回までは、リゾート開発や地域開発に対して大きな非難がありましたが、“行き過ぎはいけないが、快適に過ごすための開発は現在の自分たちにはなくてはならないし、娯楽も必要だ”等の意見も増えています。彼らのほとんどはマンション暮らしです。ボタン一つでお湯が出たりクーラーが可動したり床暖房が入ったりするのがあたりまえと思っているこどももいます。キャンプなどに行っての短い期間の不自由な生活については楽しく語っていますが、普段の便利な生活は、捨てられないとのこと。

しかし、将来の夢として環境保全に役立つ研究者や国の機関に入って役立ちたいなど頼もしい意見が男女を問わず数多くありました。

海外の日本人学校からの作品は、環境保全に熱心な国では学ぶところが多くみられるが開発途上の国に在住する子供たちは、大気汚染による健康問題について訴える作品が多くありました。

また５回のコンクールを通して得た、受賞者の家族やその家族の所属する会社・団体等との交流は今後の当活動に大変な影響力を与えてくれることと期待しています。

国内応募状況

(単位：人)

県　名	合　　計	小4	小5	小6	中1	中2	中3	小／中小計
北海道	28	6	6	3	9	4		15／13
青　森	87	17	18	9	26	17		44／43
宮　城	17	6	4	6			1	16／1
秋　田	17		5	3	4	1	4	8／9
山　形	3	1		1		1		2／1
福　島	36				6	28	2	／36
茨　城	72	8	15	17	18	10	4	40／32
栃　木	62	1	14	20	4	20	3	35／27
群　馬	357	42	64	61	78	77	35	167／190
埼　玉	582	179	100	140	117	43	3	419／163
千　葉	494	97	98	131	60	54	54	326／168
東　京	499	62	69	64	80	79	145	195／304
神奈川	90	16	15	18	13	13	15	49／41
新　潟	47	6	7	6	9	10	9	19／28
石　川	16	2	2		2	8	2	4／12
福　井	22	4	5	3	6	3	1	12／10
山　梨	73		55		3	10	5	55／18
長　野	63	17	11	10	9	15	1	38／25
岐　阜	53		16	8	9	20		24／29
静　岡	64	17	10	17	5	14	1	44／20
愛　知	26		9	6	5		6	15／11
三　重	7		1	1		4	1	2／5
滋　賀	1			1				1／
大　阪	131	32	22	33	12	27	5	87／44
京　都	53	5	36	12				53／
奈　良	11			3		2	6	3／8
和歌山	2					2		／2
鳥　取	26	5	5	7	5	4		17／9
島　根	10	2				6	2	2／8
岡　山	31	2	7	4	7	10	2	13／18
広　島	3							3／
徳　島	1					1		1／
愛　媛	57	10	11	11	3	22		32／25
福　岡	35	10	4	5	3	22	5	19／16
佐　賀	1			1				1／
長　崎	15	5	1	3		6		9／6
熊　本	5	1	4					5／
大　分	35	6	6	2		21		14／21
宮　崎	23			4	4	15		4／19
鹿児島	222	9	13	9	67	41	83	31／191
沖　縄	62	3	8	9	6	16	20	20／42
合　計	3439	574	641	628	568	614	414	1843／1596

海外日本人学校応募状況

（単位：人）

国　名（地　域）	計	小4	小5	小6	中1	中2	中3
アメリカ（テネシー）	17		13	4			
カ　ナ　ダ（トロント）	9	5				4	
スペイン（マドリッド）	26	7	1	8	3	4	3
オランダ(北ブラバンド)	8				4	4	
(アムステルダム)	86	26	28	20	5	2	5
ベネヅエラ（カラカス）	19	10			7	1	1
台　湾（台北）	102	2	18	81	1		
ドイツ（デュッセルドルフ）	10		10				
エクアドル（キト）	1	1					
合　計	278	51	70	113	20	15	9

中国・韓国・インドネシア応募状況

（単位：人）

国　名（都市名）	計	小4	小5	小6	中1	中2	中3
中　国（北　京）	84	23	15	19	4	11	12
韓　国（アンソン）	14	3	4	2	1	4	
インドネシア(ｼﾞｬｶﾙﾀ)	105	67	21	7	8	2	
合　計	203	93	40	28	13	17	12

《　総　合　計　》

（単位：人）

	計	小4	小5	小6	中1	中2	中3
国　内	3，439	574	641	628	568	614	414
日　本　人　学　校	278	51	70	113	20	15	9
中国・韓国・インドネシア	203	93	40	28	13	17	12
総　計	3，920	718	751	769	601	646	435

第　2　部

第2回アジアこども会議

第２回「アジアこども会議」

日　　時　１９９５年8月２３日（水）
　　午後２時５０分から４時３５分
場　　所　如水会館（千代田区丸の内３－２－１）
　　松風の間にて

１テーマ

「ゴミ問題について」
４カ国のこどもたちが集い、会議にて採択された項目を「こどもアジェンダ２１」として宣言する。

２来　賓

高円宮殿下・妃殿下
大島　理森　（国務大臣・環境庁長官）

近藤　次郎　（地球こどもクラブ会長）
愛知　和男　（地球こどもクラブ副会長／元環境庁長官）

３出席者

こども

受賞者（１６名）
作文コンクール授賞式出席者

おとな

（８名）
司　占　樹　　（中国北京市教育局職員）
ユー・ジューヨル（ソウル開院中学校教頭）

審査員　森　ミドリ　（音楽家）
山谷えり子　（サンケイリビング新聞編集長）
長沢　光男　（環境ジャーナリスト）
浅井　清恵　（千葉県中学校教諭）

進行役　江森　陽弘　（審査委員長／ジャーナリスト）
〃　杉山　多恵　（審査員／環境庁・環境学習専門官）

進　行

開会のあいさつは愛知和男地球こどもクラブ副会長。愛知和男副会長は第１回作文コンクール当時の環境庁長官でした。進行役の江森陽弘氏より会議を初めるあたっての挨拶の後、アドバイザーとして参加頂いた有識者の方々の紹介があり議事進行となりました。

会議は出席者２０名と多人数なので指名式にし、地域性を生かして発言してもらいました。今回のテーマは「ゴミ問題について」です。この問題は、日本同様アジア諸国でも深刻な環境問題の一つでありるという、海外より参加の子供たちの発言がありました。
以下、出席者の主な意見です。

［国内編］

- 学校や家庭で、リサイクルについてよく話し合いをします。
- 犬の散歩のときに空き缶を拾います。
- 家族で山に行ったとき、ゴミを持ち帰ります。
- 紙パックやトレイは、スーパーに持っていきます。
- 使った油は、石鹸作りに役立てます。
- 今日、東京に来て電信柱ごとにゴミ置き場があるのを見て『都会だな～』と思いました。
（宮崎県より参加）
- 道徳の時間にみんなで海岸のゴミを拾いに行ったことがあります。
（千葉県より参加）
- 日本は、街にゴミ箱が少ないと思います。
（スペイン・マドリッド日本人学校より参加）

［海外編］

- 中国では毎朝、通りのゴミを集めてくれます。
- 私の家では、一人ひとりがゴミをビニール袋に入れて出します。
- 日本もインドネシアもゴミが落ちていなくて、きれいな街だと思います。
- 韓国のソウルでは、数年前からゴミを出すのが有料になったので、ゴミがかなり減ったと思います。
- アパート・学校ごとに、ゴミの分別化に努めています。
- 学生が中心となって、キャンペーンなどを行っています。

などの発言がありました。

全員の発言が終了したところで、進行役が子供たちからでた意見を採択し、宣言書を作成しました。これは、今回の会議で子供たちに今の気持ちをいつまでも持っていてもらおう、また今後の生活にこの決意を実行しようという気持ちを「こどもアジェンダ２１」として宣言するものです。出席した子供たち全員がサインをし、４カ国の代表４名が大島理森環境庁長官に宣言書を手渡しました。

コピーを貼る

作品発表会・懇親会

日　時　：　１９９５年8月２３日（水）
　　ＰＭ１６：４５～１７：４５

場　所　：　けやきの間

発表作品：　高円宮賞　　『水の学校』　　椛島　　頌一
　　〃　　『ギフチョウよ、生きのびて』　　長谷川　顕子

以上２名の作品を本人に朗読してもらいました。作品発表終了後、懇親会に入り高円宮殿下・妃殿下ご臨席のもと、インドネシアの受賞者が民族衣装でバリ舞踊を披露し、中国・韓国の子供たちと日本の子供たちとの交流が持たれました。

以　上

第５回「ぼくたちの地球を守ろう」作文コンクール

収支決算報告書

１収入の部

賛助金収入	１０，５００，０００
補助金収入	２，６５０，０００
収入合計	￥１３，１５０，０００

２支出の部

審査員関係費	３，０１５，７６２
募集告知費	１，３７５，０５０
通訳・翻訳料	１，０６９，５０５
各賞記念品費	６１５，１７９
入賞者記念交流費	９５７，２９５
入賞者交通費・宿泊費	１，１７３，７２８
事務局運営費	９９６，０７２
雑費	２，４６９，０００
編集制作媒体費	１，４００，８００
支出合計	￥１３，０７２，３９１

残高（管理費へ充当）　７７，６０９